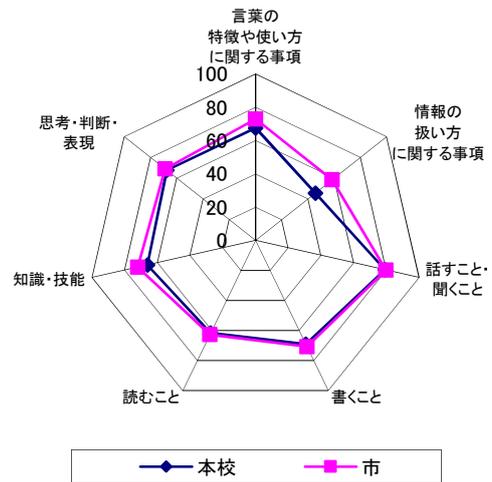


宇都宮市立清原東小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	67.6	73.0	75.5
	情報の扱い方に関する事項	45.7	58.5	59.0
	話すこと・聞くこと	79.3	79.8	75.9
	書くこと	69.1	70.7	71.7
	読むこと	61.6	62.8	62.5
観点別	知識・技能	66.1	72.0	74.4
	思考・判断・表現	67.7	69.0	68.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	●市の平均正答率73ポイントより5.4ポイント下回っている。特に第5学年に配当されている漢字の書き取りに課題が見られる。無回答も多く、41.4%と半数近くに上る。	○授業の中で、思いや考えを書く時間をじっくりとったことで、自分の言葉で述べるできるようになっている。しかし、漢字が身に付いておらず、既習事項の定着に課題が見られる。文章等を書く中で、既習漢字を使うことを意識させていく。
情報の扱い方に関する事項	●情報と情報との関係について理解し、文章を簡単にまとめて書く問題では、市の平均正答率から12.8ポイント下回っている。解答状況を見ると、無回答が25.9%あり、市の16.1%よりも多い。	○字数制限のある中で、要点をまとめる練習をしたり、複数の情報からまとめることを行い、定着を図る。
話すこと・聞くこと	○物語の内容を読み取る問題では、ほぼ市の平均正答率と同様である。	○各教科や学級活動などにおいて話し合いを進める中で、司会者の役割として「計画的に話し合う」ことを意識して行えるように進行の仕方を掲示したり、いつでも手元で確認できるようにカードを作成したりして、無理なく身に付けさせられるように指導する。
書くこと	○立場を明確にして、話し合いの内容を記述でまとめる問題では、市の平均正答率を上回っている。学習の中で、必要な言葉を使って短文でまとめることを繰り返し行った成果であると考えられる。	○朝の学習や家庭学習などで自由作文などを取り入れ、気軽に文章を書く活動に取り組ませ、文章を書くことに抵抗感をなくすようにしていく。
読むこと	○物語の内容を読み取る問題では、ほぼ市の平均正答率と同様である。	○今後も、読書や読み聞かせの機会を取り入れ、多くの書物に触れさせるようにする。 ○好きな本だけではなく、チャレンジブックを通して、様々なジャンルの本に触れさせるようにする。

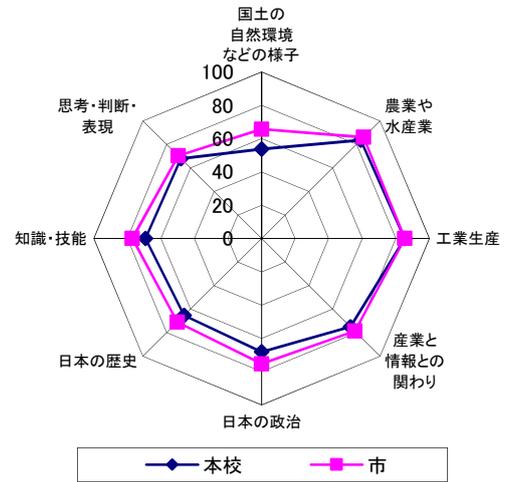
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

宇都宮市立清原東小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	53.8	65.7	67.0
	農業や水産業	83.6	86.1	77.5
	工業生産	85.3	85.4	76.7
	産業と情報との関わり	75.0	78.6	69.6
	日本の政治	68.1	75.2	65.8
	日本の歴史	65.3	71.1	69.1
観点別	知識・技能	69.2	77.0	72.8
	思考・判断・表現	67.9	70.3	64.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

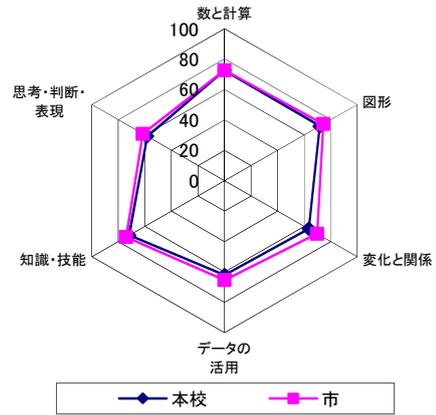
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	<p>平均正答率は、市の平均正答率より低い。</p> <p>○自然災害から命を守る取り組みについての問題の正答率は市の平均とほぼ同じになっており、よくできている。</p> <p>●日本の周辺の海洋名について答える問題や、気候の様子に着目して、雨温図から都市の位置を考え、判断する問題の正答率が5割以下で、知識の定着に課題が見られる。</p>	<p>・自然災害など他教科でも学習した内容についてはよくできているが、国や海洋など知識力が足りない。そのため補充プリントで定着を図ったり、教室に世界地図などを掲示したりして、児童が目にする機会を増やしていく。</p>
農業や水産業	<p>平均正答率は、市の平均正答率より低い。</p> <p>○米づくりの作業の理解をもとに、資料を読み取る問題や米づくりの生産効率について考える問題の資料の読み取りについては比較的よくできている。</p> <p>●食糧生産に関する地図を読み取る問題の正答率が低い。</p>	<p>・資料から分かったことや他の資料と関連付けて分かったことを、理由や根拠を明らかにしてまとめたり説明したりする活動を継続的に行うことで、思考力や表現力、資料を読み取る力を伸ばしていく。</p>
工業生産	<p>平均正答率は、市の平均正答率とほぼ同じである。</p> <p>○電気自動車に着目して、環境に配慮して生産された自動車について考え、ガソリンカーと比較して表現する問題は市の正答率より高く、8割を超えた。</p>	<p>・工業製品についてイメージがしづらい部分があるので、具体例を多く出すなどして児童の認識を整理したい。</p> <p>・5年生の学習では、日本と他国を比較して考えることで日本の工業生産の特徴を考えられるようにする。地図帳や資料集を積極的に活用する。</p> <p>・6年生の歴史の学習では、文明開化後の殖産興業や高度経済成長から工業生産について5年生の学習内容を復習できるようにする。</p>
産業と情報との関わり	<p>平均正答率は、市の平均正答率より低い。</p> <p>○放送、新聞などに着目して、情報産業の役割や責任の大きさについて捉え、判断することについての理解は市の平均と大きく変わらない。</p> <p>●情報の正しい受け取り方についての問題は正答率が低い。</p>	<p>・情報ネットワークやインターネットの利便性を自分たちの経験や生活の中から見つけたり、メリットやデメリットを考えたりすることでネットの利便性や特徴について理解を深められるようにする。</p>
日本の政治	<p>平均正答率は、市の平均正答率に比べて低い。</p> <p>○日本国憲法に着目して、日本国民の権利及び義務について捉え判断することについての理解は市の平均と大きく変わらない。</p> <p>●国会の働きについての正答率が5割程度と知識の定着に課題が見られる。</p>	<p>・国会・内閣・裁判所のしくみについて、その役割・関連を理解させるために、新聞やニュースの記事などを授業に活用し、時事問題への関心を深められるようにする。</p>
日本の歴史	<p>平均正答率は、市の平均正答率より低い。</p> <p>○ご恩と奉公について資料から読み取る問題や室町文化の特徴などの基本的な知識を問う設問の正答率が市の平均正答率より高い。</p> <p>●平清盛や源頼朝についての理解に課題が見られる。</p>	<p>・歴史上の人物が行った政策や歴史上の出来事について、その時代の様子や人々の生活、時代の変化などと関連付けて考えることで、政策の意図や出来事の背景を捉えられるようにする。</p> <p>・補充プリントなどで繰り返し学習する。</p>

宇都宮市立清原東小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	72.6	72.6	71.6
	図形	71.8	74.4	72.0
	変化と関係	63.4	69.8	62.6
	データの活用	62.1	65.5	59.1
観点別	知識・技能	71.9	74.1	68.9
	思考・判断・表現	58.4	61.6	63.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

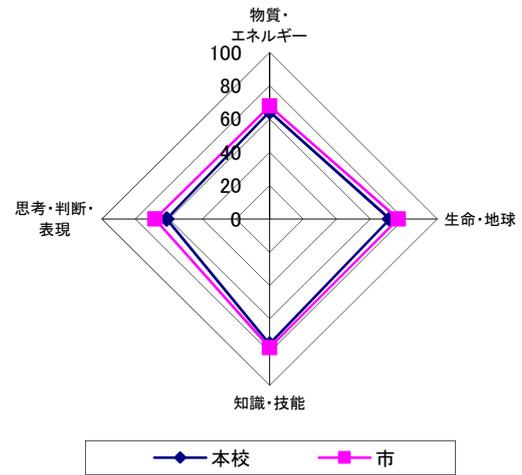
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、領域の中で最も高く、市の平均正答率と同じである。</p> <p>○小数のかけ算や分数の計算は市の正答率より高いが、小数のわり算の正答率がやや低い。</p> <p>●数直線から式を導き出す問題の正答率が低く、課題がみられる。</p>	<p>・基本的な計算練習を継続するとともに、小数のわり算の計算練習に重点を置き、どこで間違えたのか児童が分かるように支援していく。</p> <p>・助詞に気を付けながら問題文を読み取り、数直線に表して解いたり立式したりできるように中学年から積み重ねていく。</p>
図形	<p>平均正答率は、領域の中で2番目に高く、参考値とほぼ同じである。</p> <p>○平行四辺形や台形の面積の求め方や対称の軸、コンパスで三角形をk描くことは定着している。</p> <p>●正八角形の中心角や内角の大きさ、三角形の外角の大きさを求める問題に課題がみられる。</p>	<p>・5年生の学習内容である三角形の内角の和や中心角の大きさから計算で角の大きさが求められる問題を復習する時間をもつ。</p> <p>・様々な正多角形の角の大きさを求める問題をするこにより求め方のきまりを見つけ出すことができるようにする。</p>
変化と関係	<p>平均正答率は、市の平均正答率より低い、参考値よりやや高い。</p> <p>○四角形の辺の長さや中にある●の数から一番混んでいたものを選ぶ問題は80パーセント近くで市の正答率とほぼ同じである。</p> <p>●時速や秒速を求める問題に課題がみられる。</p> <p>●兄弟で走る速さが違うときの距離を式や言葉で説明する問題では市の正答率よりも高いが、正答率が約45パーセントと低い。</p>	<p>・問題文を正確に理解できるよう図に表したり補助発問を工夫したりして、速さや時間、距離を求める問題を解く練習を継続していく。</p> <p>・実際の場面を扱った問題や解き方の説明を記述する練習を取り入れていく。</p>
データの活用	<p>平均正答率は市の平均正答率より低い、参考値よりは高い。</p> <p>○表から一部分の度数を求める問題は88パーセント近く、市の正答率よりもやや高い。また折れ線グラフを読み取る問題も約70パーセントと市の正答率と同じである。</p> <p>●平均値を求める問題や調査人数が異なる2つのグラフの割合から人数の多少を比べる問題、2つの棒グラフの数値を比較し、その割合を分数で表す問題に課題がある。</p> <p>●最頻値を求める問題は市の平均正答率より高いが約53パーセントと正答率として高いとは言えない。</p>	<p>・平均値の求め方や百分率を小数に直して全体数にかける計算の仕方の練習をしていく。</p> <p>・データの様々な用語を復習する時間を設ける。</p> <p>・資料を正確に読み取ることができるように見逃しやすいポイントを助言していく。</p>

宇都宮市立清原東小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	64.4	67.8	64.1
	生命・地球	71.6	76.7	78.3
観点別	知識・技能	75.2	77.4	78.3
	思考・判断・表現	61.3	68.3	66.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>市の平均正答率と比較して、3.4ポイント下回っている。</p> <p>○物の燃え方では、物が燃えると空気中の酸素の一部が使われることを正しく理解している。</p> <p>●振り子のきまりでは、振り子の一往復の時間と重さの関係を調べる実験で誤答が多かった。</p>	<p>・実験に対する意欲が高く、進んで実験に取り組むことができる。しかし、実験の目的が正しく理解されていないか、結果から考えを深める考察が苦手だったりという場合が多い。</p> <p>・実験の目的を明確化し、グループでの対話を通して考察が深められるようにしていく。</p> <p>・定期的に学習内容を振り返る機会を設け、基礎・基本の着実な定着を図るようにする。</p>
生命・地球	<p>市の平均正答率を5.1ポイント下回っている。</p> <p>○植物のからだには、決まった水の通り道があることを正しく理解している。</p> <p>●天気の変化では、日本の天気の変化の特徴を正しく理解していないため、誤答が多く見られた。また、気象衛星の画像と雨量情報を正しく結びつける問題の正答率が低かった。</p>	<p>・天気の変化や動物の体のつくりとはたらきなどで誤答が数多く見られたことから、学習内容と身近な生活との関連を十分図り、実感を伴った理解がなされるようにしていく。</p> <p>・理科で使われる用語についても、生活と結び付け使用していきけるようにしていく。</p>

宇都宮市立清原東小学校

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎・基本を確実に身に付けさせる指導の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・分かる授業の展開(効果的な発問・助言・指示・課題提示からまとめまでの板書の工夫, 教材・教具の工夫等) ・「漢字・計算オリンピック」の実施(年2回) ・ノートの書き方の指導 ・「パワーアップ教室」の実施(木曜日の昼休み) 	<ul style="list-style-type: none"> ・算数の「数と計算」の領域では, 市の平均正答率と同じである。小数のかけ算や分数のたし算・かけ算・わり算は市の平均正答率より高い。小数のわり算については市の平均正答率より低い。 ・国語では5年生の漢字の書き取りに課題がある。特に「任せる」「貿易」は無回答が多い。
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・学校再開時に家庭学習の仕方のプリントを配付し, 啓発を行っている。 ・11月と2月に「家庭学習強化週間」を実施し, 「家庭学習カード」に家庭での学習時間や自主学習の内容, 振り返りを記入したり, 保護者の励ましなどを書いてもらったりして提出するよう指導している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「宿題はきちんとやり, 期限までに提出している」に肯定的に回答した児童の割合は2・6年生は95パーセント以上で市の平均を上回っている。市の平均より低いものの1年生は95パーセント, 3・4年生は86パーセントを上回っている。2・3・6年生は昨年よりも高くなっている。 ・自分で計画を立てて, 家庭学習に取り組んでいる」は, 70パーセントに達していないが, 3・5年生は市の平均を上回っている。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・市の調査では算数の「数と計算」の領域で式を導き出す問題の正答率が低い。中学年から, 数直線をかくことや補助発問を工夫して式を導き出す学習を積み重ねていきたい。また, 正八角形の角の大きさを求める問題の正答率が低いので, 様々な正多角形について角の大きさを求めるだけでなく, 求め方の共通点を考えさせて, 理解を深めていきたい。記述式設問については, 正答率が低く無回答の児童もいる。基本的な学習内容を理解したうえで, 色々な種類の問題文や資料を正確に読み取り, 2つの事柄を比較して記述できるよう社会科や理科においても資料を読み取る学習を丁寧に扱ったり, 教科書の4コマ漫画なども活用して問題の場面を理解し自分で問題文を作る学習を取り入れたりしていきたい。

・国語では, 自分でよいと思う意見を選び, その理由や反論を書く設問では市の平均正答率を上回っている。しかし日本文化の「ナマハゲ」について3つの資料を読み取り, 報告する文章の一部を記述する問題は無回答が多く, 市の平均正答率を下回っている。接続語やキーワード, キーセンテンスに気を付けて, 要点を捉える指導をしていく。また他教科でも振り返りや鑑賞したことなど書く活動を取り入れ, 文章を書くことへの抵抗感を少なくしていきたい。漢字の書き取りでは, 他教科においても学習に出てくる漢字をノートに正確に書くよう指導し, 朝の学習などで児童による漢字クイズを出す機会をもつなど漢字に興味をもたせる活動を工夫していく。

・「漢字・計算オリンピック」の後, 児童ができなかった問題について「パワーアップ教室」も利用し, 個別に指導していく時間をもちたい。

・次年度も引き続き「家庭学習強化週間」を実施し, 「家庭学習カード」に児童自身が計画やめあてを立てて取り組むことを奨励していく。また朝の学習や読書タイムを取り入れて, 基礎的な学習内容の定着や読解力を高めていきたい。